

表3-2 各プラントの粗鋼生産能力、1977年—1978年

日本(100万吨)		アメリカ(100万吨)	
福山(日本鋼管)	17.6	インディアナ (インランド)	8.5
水島(川崎製鉄)	14.0	インディアナ州ゲーリー (USスチール)	8.0
千葉(川崎製鉄)	10.0	メリーランド州スパローズ・ プラント(ベスレヘム)	7.0
君津(新日本製鉄)	10.5	ミシガン州グレイト・レイクス (ナショナル)	6.6
和歌山(住友金属工業)	10.2	インディアナ州E・シカゴ (ジョーンズ&ローリン)	5.5
鹿島(住友金属工業)	9.9	インディアナ州バーンズ・ ハーバー(ベスレヘム)	5.3
八幡(新日本製鉄)	9.7	伊利ノイ州S・シカゴ (USスチール)	5.2
大分(新日本製鉄)	9.3	ペンシルベニア州フェアレス (USスチール)	4.4
名古屋(新日本製鉄)	8.3	オハイオ州クリーブランド (リパブリック)	4.4
加古川(神戸製鋼所)	7.1	ウェストバージニア州 ウィアトン(ナショナル)	4.0
合 計(10)	106.5		58.9

〔資料〕 日本のデータはIISSの「製鉄産業摘要・日本」(1977年)から。アメリカのデータはIISSの解説書「1960年-1980年米国製鉄工場」から。

出所：トーマス・K・マクロー編『アメリカ対日本 日米経済の比較研究』TBS
ブリタニカ、1987年、106頁。

1976年までに日本には19の一貫生産プラントができ上がり、その鉄鋼生産力は合わせて年間1億トンをゆうに上回っていた。そのうちの11プラントは600万トン以上の生産能力があった。こうして日本の鉄鋼産業は少数の近代的できわめて大規模なプラントによってあらゆる競争相手を上回り、日本は世界第一の鉄鋼生産・輸出国に育っていった。

出所：トーマス・K・マクロー編『アメリカ対日本 日米経済の比較研究』TBS
ブリタニカ、1987年、121頁。